

会 議 録

会 議 の 名 称	平成25年度 第1回生涯学習推進センター運営協議会
開 催 日 時	平成25年11月26日(火)午後2時~4時
開 催 場 所	所沢市生涯学習推進センター 学習室203
出 席 者 の 氏 名	榎田二三子、鎌滝紀和、古敷谷千賀子、清水仁一、須賀聡、 宮本八恵子、山田英徳
欠 席 者 の 氏 名	安藤聡彦
説 明 者 の 職 ・ 氏 名	なし
議 題	(1) 中間まとめから提言に向けて
会 議 資 料	・ 提言「生涯学習推進センター事業の見直しと新たな方向性について」(中間のまとめ) ・ (資料)「生涯学習推進センター事業の見直しと新たな方向性」
担 当 部 課 名	教育総務部生涯学習推進センター 所長・比留間嘉浩、副主幹・佐々木葉子、副主幹・糟谷実 主査・倉持美樹、主査・伊藤利裕、主任・山本一人 電話 04(2991)0303

様式第 2 号

発言者	審議の内容（審議経過・決定事項等）
所長	<p>事務局の司会により開会し、所長が挨拶をした。（14：00）</p> <p>事業の見直しと新たな方向性を示していただくために中間まとめをいただいたところです。本日はさらに踏み込んで提言に向けた協議をよろしく願います。</p>
会長	<p>今年度で区切りをつけていきたいので、協議をお願いします。</p> <p>本日の議長は、運営協議会設置要綱に基づき古敷谷会長にお願いし協議に入る。</p>
議長	<p>本日の進行について、事務局より提案をいただきます。</p>
事務局	<p>これまで、センター事業の見直しと新たな方向性について、人材育成エリアとふるさと研究エリアの二つの講座事業系・仕組み系・ふるさと事業系の3つについて評価検討、中間まとめをし、これを基に提言の素案「（資料）生涯学習推進センター事業の見直しと新たな方向性」を作成いたしましたので、本日は提言素案を検討していただきます。</p> <p><資料の朗読></p>
議長	<p>始めに「講座事業系の方向性」について、ご意見ををお願いします。</p>
委員	<p>市民大学はマンネリ感もあるが受講生が楽しんでいる。素案に「地域に学びを広げる」ということだが、14期市民大学の受講生が立ち上げたOB会も、14期は100%、15期は80%、20期は20名の25%しか受講生が入会しておらず現在は、3つあるOB会をあわせても5割に満たない。自分達が学んだことを地域に広げることが、ただ学ぶことだけになっていることが少し残念である。</p> <p>市民大学も1年次は総合学習でインパクトのある講座をおこなっても2年次はグループ学習のため、大半はグループ発表など講座のまとめに入ってしまう。2年次の発表会は、グループ学習でわかったことと「これから私達はこうしたい。」という事を言えるように意識的に引っ張っていくようにしたい。</p>

委員	<p>「地域に学びを広げる」という点において、市民大学と市民大学OBの活動について発信がうまくいっていない。提言には、「こうしたら良い。」というメッセージに加えて、具体策を盛り込むべきではないか。</p> <p>人材バンクがあるのだから市民大学の講師になれるような方を人材バンクとリンクしていくとか、ふるさと研究とリンクして企画展示をしている間に、常設展の中に市民大学の文化的活動とか、所沢の歴史や自然など学んだ事を展示して発信していくことやホームページなどを利用して市民大学サイトを開くとか、次のステップに踏み出せるような具体策を盛り込んだ方が良い。市民大学を受講している方の中には、コアな資料を持っていて、よく知っている方もいるので、そのような方が、1つのまとまった講座を持つことで質が向上するし、人材バンクでも講師として確保できる。そして、市民大学で培ってきた技をどのようにほかの部署とリンクして発信していくかを提言に盛り込みたいと思います。</p>
議長	<p>具体策があれば発言していただきたい。</p>
委員	<p>ふるさと研究において、民俗資料館が3つある。他の地域と比べても遜色がないくらいさまざまな事を研究している自主研究グループがかなりたくさんある。</p> <p>ふるさと研究の企画展を行っていくうえでも重要な研究グループである。高校とか大学は学ぶ所であるが、大学から先は研究したり調査したりすることで知見を獲得したり比較対象が出来る。大学を出たグループと自主研究のグループが密接に連携し、何らかの形で地域に発信していくことが必要である。その発信は、ペーパーや市役所での展示、研究発表という形で学会などに乗り込んでいくとかで、発信する形態を考えていくと自分たちが学んだことが次へ繋がっていくという意識が出てくる。ふるさと研究や資格を取った市民学芸員の方、市民講座を卒業している方、今自前で研究している人たちを結びつけるイベントがあると良い。</p>
委員	<p>市民大学のところで、「地域に学びを広げる」ということで「学びの中身は何だろう。」、「広げていくということは何を広げていくのだろうか。」と思いました。最後の結びの所に、知識・技能・経験を講師になって教え指導するという自分が得た物を広げていくのが学びの広がりなのか、また、そうすることでレベルアップにも繋がるが、学ぶ姿勢が伝わるということが大きいように思える。</p> <p>市民は生き方も意識も多様ですので、街づくりに皆が関わっていく様な視点で、学んだ方々がいきいきとしている様子を目の当たりにすることで学びが広</p>

議長	<p>がっていくような気がする。受身のものは何も身に残らない。そこでいかに学んでいる姿勢を伝えていくか、自分も地域の力となっている実感を得られるようなものを行政の方で作っていけるといいのかなと思う。</p>
議長	<p>他に何かありますか。</p>
委員	<p>狭山丘陵いきものふれあいの里センター主催の植物画講座で、受講生に役割を与え、「あなたたちがやらなければ、世の中には無い。」とミッションを与えてやり、10年を掛けて植物画図鑑を作った。誰もが手軽に取って見られる物を作り、自分達が作るものであると自覚を持たせている。受講生に自分達でなければ出来ないものが出来るような仕組み作りが必要ではないかと思う。</p>
議長	<p>形になって残るものはいい。自分のやった成果も残り、それが人のためにもなる。市民大学でも史跡めぐりなどの講座があるので、「皆が手に取れるようなガイドブックなどを一緒に作りませんか。」と行政のほうから働きかけると、時間がかかったとしてもそれが一つの形となって自分たちが作ったという思いがもてるようになると思う。</p>
委員	<p>植物画図鑑づくりの中での反省として、まとめる作業が大変だった。</p>
委員	<p>市民大学における企画委員会の会議は、何回程度するのか。</p>
所長	<p>市民大学企画委員会ですが、企画委員を選んで20回程度、企画会議を行います。「行政主導ではなく市民がこんな講座を学びたい。」ということ企画委員が話し合い、次期の市民大学の講座を選びます。</p>
委員	<p>感想や評価などのアンケート調査についても企画の中で検討されているのか。</p>
所長	<p>そのとおりです。</p>
委員	<p>センターの方向性のツリーのようなものを描けるといいかなと思う。ここのセンターの目指すものがトップにあり、枝葉があり、また、その枝から伸びたものがあり、一本の枝ではあるが、ここに市民大学があり、技能資格講座があり、大学連携セミナーがあり、そして色々な事を学ぶ人材バンクがあり、ふるさと研究があり、一つ一つの枝が一つのツリーになる。</p>

	<p>そして、今あなたが学んでいる事が「このツリーのこの位置にある。」という事、「全体の方向性の目標がこれ。」というものを指し示されている事で、自分のいる立場が明らかになってくると、すぐに形になって成果に繋がらなくても、「私はこの枝のこの部分を担当している。」という意識を持つと目的意識が違ってくると思う。ビジュアル的なものが提言の中に描けるとよいのではないか。</p>
委員	<p>ビジュアルで示せると分かり易い。</p>
委員	<p>大江戸東京博物館の立ち上げの時もそうだった。誰でもがちょっとした関心や興味がある人にアピールして気楽に参加して来ることができる講座とか体験のイベントがたくさん用意されている。次第にそういう所から自分でも描いてみたい、作ってみたいとステップが上がって来る時に、それをちゃんと捉える為の仕掛けがその上にあり、トップには大学の先生とかと共同研究をやっている所もあり、そこに目標を定めるとモチベーションが上がってくる。学んでいることを考えながら組み立てていくと市民へのアピールになるのではないか。</p>
委員	<p>人材バンクを活用し講師を呼んで出前講座をしたり、実際に役立つ文章を貰ったりするとよいのでは。自分の分野ではないことを他の講師に頼って講座を行うことにより、また、参加している人から情報を得て人づてに講師をお願いしていくことで繋がりが出来る。コーディネーターのような人がいれば市民の活動が活性化になると思う。そうした人がいれば他の活動と人材バンクとの連携が取れると思う。</p>
議長	<p>人材バンクでは、登録者の「私は出来ます。」ということと、バンク利用希望者の「ここまで教えて欲しい。」と求める内容がなかなか合致しない。自己申告よりも「この方を人材バンクに」というような推薦と本人の了解を得て系統だってバンクに貯めていくのも良いのではと思う。</p>
委員	<p>情報発信の仕方について、市民大学の方達が蓄積したものについて限られて人にしか伝わっていない。パソコンのホームページ上に今まで蓄積された物を掲載し、関心ある項目を自分でプリントアウトできるようにすることも具体策の一つではないかと感じた。</p>
委員	<p>市民大学や資格技能講座を受講した方は、楽しいという思い、あるいは向上したいという思いでやられていると思うが、それを広げていくには、受け取り手の</p>

	<p>ことを考えて伝えないと伝わらない。自分たちの成果発表から、見る人が役に立つ形に変えなければならない。そここのところの発想の転換を誰かが手伝わなければ無理だと思う。</p> <p>資格や講座で取得したものを直ぐに仕事やキャリアアップには繋がらないので、自分の方から皆の役に立つように発信していけるような仕組みがあると良いと思う。取得したものを生かせる場所があれば、そこからまた講座やNPOまでいかななくてもグループで、小さい事からでもやっていこうという動きが出てくると思う。明日からの発想の転換は一人では難しい。</p>
委員	<p>発想転換の助けの一つとなるのが人材バンクかもしれない。</p>
委員	<p>ただ待っているだけでは来ない。</p>
委員	<p>市民に手を差し伸べ、さらに、人材バンクを通して市民に教え還元が出来る。市が人材バンクとか資格取得講座を開設する必然性がどの辺にあるのか。あえて、市がやらなくても民間でも同様のものはたくさんあるが、市が人材バンクを置いているという事は、今は仕事が出来ないけれど資格を取得することで仕事の機会が開かれた時にはいつでも役に立てるように。また、自分の力を発信する意味でも資格技能講座と人材バンクが有機的に繋がっていけば、ここで資格を取れば人材バンクに登録され発信が出来る。人材バンクの課題の中に仕事の一環として登録される方もあるとのことなので資格を取った方が自分のキャリアアップのためのワンステップの機会に人材バンクがなればと思う。</p> <p>市が企画している以上、何らかの方法で地域に還元なり貢献なりを掲げていないと市でやる必然性がないと思う。</p>
所長	<p>今年度の新しい取り組みとしては、ボランティア人材バンクフェアをこの4月に開催しました。もう少し情報発信に工夫が必要ではありましたが、登録されている方が、このセンターを会場に発表し見ていただくことが出来たということは、いい試みだったと思います。</p>
委員	<p>大勢の入場者がありましたか。</p>
所長	<p>当日参加者は300人程度となりました。</p> <p>委員さんの発言にもあったように人材バンクに登録された人達を埋もれさせないため、フェアを開催しました。これにより、フェア参加者の中には、後日、講座等の依頼があったと聞いています。</p>

委員	人材バンクホームページには、自分の一言みたいなものはありますか。
所長	あります。登録者のPR文や所有する資格や経験などが掲載してあります。
委員	ホームページに、例えば、昨年度は何回講座を受講したかも付け加えられたら良い。
所長	現在、ホームページにはないですが、それもアピールの一つと考えられます。
委員	前回、この運営委員会で人材バンクのパンフレットを配布されたが、その中には職能的なものや芸術的なもの、個性的なものや割と幅がある。
所長	自分の持っているものを登録するわけですので幅広くなります。
議長	市が斡旋、仲立ちをして、後に利用者と登録者で連絡を取りあい協議し要望に合わなければ破談になるということですか。
所長	はい。
委員	依頼する方も解らないと二の足を踏んでしまう。接触してみるのも手だ。
所長	そうですね。初めての方だとそういうこともあります。
委員	人材バンクに登録された方が、ボランティア活動を希望するのであれば、「自分と一緒に組みたい。」とサークルに参加することによりもっと広がると思う。
委員	センターが開設されたばかりの時、ふるさと研究で活動団体の冊子を作った時に載せて貰った2、3の団体に「こんなことをやっている。」と聴いて、「顔合わせをしましょう。」と伝え集うことが出来た。こうした冊子を出すことで繋がりを広げることが出来ると思う。
所長	人材バンクフェアでは、参加者同士で「一緒にタイアップしてやりませんか。」という話もあったそうです。センターとしてもそうした機会を設けることで人材バンクの輪を広げられますし、一人だけなら呼ばれないが誰かとタイアップしたことで呼ばれる可能性もあるということもあります。

委員	<p>学校との連携について、民具やアートなどは学校の授業などでも地域にいる特化された方を呼んで授業をすると違った印象を持って学べる。木の葉で作ったアートを美術展に出展しているうちに周りの学校から呼ばれるようになった方がボランティアで美術の授業を行っている。ターゲットにいくつかの事例を見せることによって紹介できる場や要望が増してくると思う。学校にもアピールをするように働きかけること良い。</p>
委員	<p>ボランティア人材バンクが中心になるわけではないが、これまでどおり市民から登録をして発信していくものが一つあり、例えば、市民大学人材バンク、資格技能取得講座人材バンク、ふるさと研究人材バンクのそれぞれの部署から、この方は人材バンクに登録できるという人を抽出して登録する。他の3つの事業系から一旦人材を集め、人材バンクの中でも教育系文化人材、職能系人材、芸能系人材などいくつかの人材のカテゴリが出来てきて適材適所に発信が出来るようになると思う。</p> <p>特化した人を人材バンクに登録しておき、知識はあっても、まだ不慣れなのでインタビュー形式等で話を引き出しながら各事業系とタイアップして講座を行うことも出来るのではないかな。</p>
委員	<p>大学との連携について、現在、私は薬科大学主催の講座に参加しているが、2年目に三本の講座があって自由に選べる。とてもよいが連携するのは難しい。</p>
委員	<p>大学側も出張して講座を行うよりも自分の大学に来てもらい、アピールをかねて生徒を獲得しようと大規模な講座を開いている。</p>
委員	<p>埼玉大学では、アートゼミでお父さんを世の中に立たせるというような講座がある。色んな方たちを集めて生徒と交流して面白い講座となっている。こういうところであれば連携できると思った。</p>
委員	<p>大学という人材バンクから先生を呼んで来て、市民に紹介し話をしてもらうことが出来る。大学も他と連携しないで自ら提案や講座を開いている。</p> <p>大学や高校を出た市民が地域にいて、行政の支援を受け新たな知的活動に参加していく技を磨くということになると市民大学や市民学芸員の養成講座が自分に適していて、学んだ後に次にどんな活動の場があるか、時間がたてば事例が増えてくるので急いで切り捨てるのではなく、むしろ次の礎石になっているということ踏まえてやっていけば良いのではないかな。</p> <p>杉並区では、大学や専門学校の先生が講師となって教える地域大学をやって</p>

	<p>いる。学ぶ人達は2ヶ月とか3ヶ月学んでNPOを作るという目標がある。本当にNPOを作ろうというのであれば区は財政的に援助を行う。自主活動として地域大学に入り講座を受けNPOを作ろうという流れが出来ている。見通しがきくと良いのではないか。</p> <p>3つの系統を1つの人材バンクに集合させ新たなものとして生かせたら良いのではないか。</p> <p>そして所沢地域大学を設立して、医療福祉から運動系、文科系まで講座を開催する。文科系は講座を受けた人達が市役所の文化財保護課と一緒に活動を行っていく。このように見通しが出来る仕組み作りを一緒に作っていただければと思う。</p>
委員	<p>いきものふれあいの里センターでも大学連携を行っているが、ある程度テーマがしっかりしているとお客様が来やすいし、こちらも訴えやすい。あちこちで同じような講座が行われているので、ここでしか聞けないオリジナルの講座を開催することが良い。</p>
議長	<p>講師をお願いする場合は、何か人づてがあって来ていただけるのでしょうか。</p>
委員	<p>市民大学OBの所沢クラブでIPS細胞の講座を行った際、理化学研究所に依頼したら若い女性の方が来てくれた。声を掛ければ企業も学校も直ぐに対応していただける。</p>
委員	<p>市民大学を続けていく際、ところ学と高齢者大学の位置づけが問題である。高齢者大学を卒業した人が市民大学に入ってくると1年でやめてしまう事例がある。ところ学で所沢のことを学んでもらい、市民大学でボランティアの器になってきたら高齢者大学で楽しんでもらう。高齢者大学も講座ばかりなら市民大学と同じなので、やるなら直にいったり話を聞いたりするのが良いのではないか。</p>
委員	<p>高齢者大学と市民大学では進め方が大きく異なる。受身の講座が面白くないことを知って、父は市民大学の方が面白いと言っていた。最初は面倒だが自分でやる面白さを知れば面白くなってくる。市民が育ってくると受身の受講では満足できなくなる。</p>
委員	<p>それが分からない市民には行政のほうから指針を出してあげなければならないと思う。</p>

議長	高齢者大学、市民大学、ところ学とそれぞれ特色があります。
委員	資料「4 - 3 職員の専門分野」について、専門的な知識を持っていることに越したことはないが人事異動などもあり、どちらかという人を育てるようなコーディネート力が必要になってくるのではないかなと私は思う。専門的な力が必要であるなら「ここにいる」というように教えてあげるといいと思う。
議長	色々意見が出ましたが会議はあと1回開催予定なので、提言の素案を各委員に送り、それに対する意見を送り返すといった形ではどうでしょうか。 <委員了承>
委員	役所の文言は難しいので、指針となるものを図などにして目に見える形でそれぞれの各事業の要素も吸収していくように描いてもらえればと思う。
所長	努力します。
委員	講座系、仕組み系、ふるさと系の3本の柱で言い換えれば三角錐のようなもの。市民がどこかの事業に絡んでくるが、専門性が高いところと、ベーシックなところで市民に広がっていくというデザイン、所沢の市民が色んなところに首を突っ込めるような絵がいいのではないかな。 最後の提言は、これまでの反省をとらえて課題を解決するための具体策的なものを、専門力のところでただ単に自分の専門性を強めるのではなく、コーディネーターとして人と人を繋いでいく人材を専門性として必要であるということ盛り込んでいき、具体的な事例を述べながら提言をまとめられればわかりやすい提言になると思う。
委員	質問だが、まちづくりセンターに変わって公民館には生涯学習の機能はないのか。
事務局	公民館は今も事業をやっていて、その事業を地域のまちづくりにどう力を貸せるかということを検討していく段階になっています。各まちづくり協議会を用意し、その中に生涯学習を考える部会があります。
委員	生涯学習について公民館事業をすべて1つの生涯学習センターへ移管する地域も出てきている。教育委員会のあり方も含めて国などで検討がなされている。

委員	<p>高齢になると移動が困難なため、地元の公民館の中で単なる趣味の集まりではない生涯学習をやっていくことが良い。</p>
事務局	<p>まちづくりセンターへと機構が変わりましたが公民館事業は行われております。公民館によっては、自分の学びを地域に還元するサークル団体があります。</p>
議長	<p>それでは、これで終了してよろしいでしょうか。</p> <p><委員了承></p>
事務局	<p>事務局より今後の予定について説明</p> <p>正副会長のもと事務局で提言の素案を作り委員の方々とやり取りをしながら提言を作り上げていきたいと思ひます。次回は、来年の2月から3月に掛けて協議会を開催したいと思ひます。</p> <p>貴重なご意見をいただきありがとうございました。</p>
副会長	<p>副会長の閉会のことは</p> <p>具体策を取り入れて下さり、まとめてくださるとより良いものが出来ると思ひます。2月から3月に掛けて今日話したことを盛り込んだ提言が出ると思ひますのでよろしくお願ひします。</p> <p>では第1回生涯学習推進センター運営協議会を終了します。(15:55)</p>